

NPO 法人エコサポート TGAL

久留 正成 HISATOMI Masanari [NPO 法人エコサポート TGAL 理事長]

● KES普及の目的●

ISO14001の運用・普及と環境市民活動を推進する中で、中小事業所が環境活動に取り組みやすいしくみの必要を痛感していた。KESの動きを知り、中小事業所がKESを導入することによって、環境意識が高くて改善力のある人が育ち、マネジメントレベルが向上し、事業が環境配慮型に変わる。さらに、それらの動きが家庭や地域に波及することによって、地域の活性化と環境まちづくりが進展すると予感した。

そして、地域を環境の視点で変革していきたいという思いで2003年8月にNPO法人を設立した。なお、TGALはThink Globally Act Locally（地球規模で考え、地域で足元から実践）の頭文字であり、TGALのロゴマークは環境活動により鹿児島が燃え上がる様をイメージしている(図)。

● KES協働機関と登録件数●

2002年からKES普及を図ってきたが、登録件数はなかなか伸びなかった。06年に、県電気工事業協同組合と県電設協会が組

合員を対象にKESを推奨し始めたのを機に、その年の8月にKES協働機関を設立した。

現在、KES登録事業所は35件（県内では他にNPO法人KES環境機構登録が5件）であり、その内訳はKESステップ1が31件、また建設業が30件という特徴がある。登録審査員は7名である。

● KES登録事業所の声・評価●

登録事業所からKESを導入してよかったと感謝されている。主な声を紹介すると、

- ① 車の燃料、電気の使用量や廃棄物などが減少し経費削減になった。
- ② 整理・整頓・清掃が普通に実行できるようになり、職場も活性化した。
- ③ 仕事のやり方、マネジメントスタイルが変わってきた。
- ④ 社員の環境意識が変わり、職場だけでなく家庭でも環境に配慮している、など。

環境負荷の削減だけでなく思わぬ効果が出ているのは、KESが中小事業所の身の丈に合う、分かりやすくして全員で実行しやすいシステムであることと、事業所と一緒に考え悩むという、審査の姿勢にあると考えている。

● 業界団体等との連携●

2006年度には県電気工事業協同組合と県電設協会、07年度に

は鹿児島市管工事協同組合と県環境保全協会、08年度には鹿児島市管工事協同組合の協力ももらいKESを進めてきた。また、NPO活動当初から県法人会連合会後援のもとに環境経営セミナーを継続開催している。

● 自治体のKES評価●

鹿児島市は2005年に環境管理事業所を創設し現在358事業所を認定しているが、創設当初からKES登録事業所は鹿児島市の審査なしで認定されている。また鹿児島県でも、09年度建設工事入札参加資格審査での評価項目としてKESが認められるようになった。

● KES普及と活用のための活動●

環境経営の仲間を増やすとともにKESを経営に活かし、家庭や地域で環境活動が活発化するために以下のような取組みに努めている。

- (1) 環境情報の毎月発信(県内の動き・イベント、法の改正、システム運用上の注意、環境改善事例、九州での毎月の環境テレビ番組紹介等)
- (2) KES交流会の開催(写真1)、環境改善事例や環境商品・ビジネス等の情報調査
- (3) KES説明会・構築講座、環境未来館などでの環境経



図 TGALのロゴマーク



写真1 KES交流会



写真3 環境出前講座



写真2 夏休み自由研究講座

営講座の開催

- (4) 子ども環境家計簿を用いた自由研究や出前講座、環境首都コンテストの普及、など(写真2, 3)

●その他のEMSの支援●

県内エコアクション21(EA21)審査人2人ともにKES審査員でもあるので、EA21の構築・審

査にも対応している。また、鹿児島市環境管理事業所の審査も2007年、08年に当NPO法人が業務受託して240事業所の審査をKES審査員が担当した。多くの事業所が環境経営を推進することが地域の変革につながると考え柔軟に対応している。

環境維新をめざす鹿児島市内での事業所を中心に支援活動しているが、今後は郡部でも環境経営の輪を広げようと考えている。そのためには地元で活動する審査員が不足しておりUターン、Iターンする審査員を期待している。